

犬糸状虫検査キットに関するQ & A

Ver.2

Q1 本検査キットの使用期限と保存にあたっての注意事項を教えてください。

A1 本検査キットの使用期限は、2～30℃で23ヵ月間です。通常、検査キットは室温で保存することができます。30℃を上回る地域では、2～10℃の冷蔵保管をお勧め致します。その際は、約10分かけて室温に戻してから使用して下さい。開封後は10分以内に使用して下さい。また、開封後長時間経過したものは使用しないで下さい。

Q2 検査キットの検体にはどのような試料を使うことができますか。

A2 本検査は抗凝固剤処理血液、血清または血漿のいずれも使うことができます。

Q3 試料にはどのような抗血液凝固剤が適していますか。

A3 クエン酸塩、ヘパリン、エチレンジアミン4酢酸 (EDTA) など、いずれの抗血液凝固剤も使用が可能で、抗血液凝固剤が検査結果に影響を与えることはありません。

Q4 本検査キットは、雄または雌フィラリアの両方を検出することができますか。

A4 本検査キットは雄および雌フィラリア双方に発現する抗原と反応する抗体を使用していますので、雌雄いずれのフィラリアも検出することができます。

Q5 本検査キットは少数寄生でも検出できますか。

A5 少数寄生でも検出できますが、フィラリア抗原蛋白量が本検査キットの検出限界未満であれば陰性となることもあります。

Q6 本検査キットは、犬糸状虫 (D. immitis, A. reconditum, D. repens, A. dracunculoides, B. pahangi, B. malayi) と French 糸状虫 (Angiostornngylus vasorum) を検出することができますか。

A6 本検査キットは *Dirofilaria immitis* (D. immitis) のみを検出します。それ以外は検出できません。D. immitis 以外の検出にはPCR法などによる検査が必要です。

Q7 臨床的な徴候から犬糸状虫感染が疑われますが、本検査キットの結果は陰性でした。 どうしたらよいでしょうか。

A7 再試験を行って下さい。再検査結果が陰性の場合は、臨床的背景、病歴、臨床症状を参考にして総合的に判断する必要があります。

Q8 溶血した血液試料でも検査に使えますか。

A8 溶血した血液試料を用いた場合、背景が赤くなる傾向がありますので、判定しづらくなる場合があります。従って、判定しにくい場合は新しい血液試料を用いて再試験を行って下さい。



Q9 過剰の血液試料を滴下した場合、検査結果に影響しますか

A9 全血 3 滴までは 1 滴と同じ結果でしたが、4 滴以上の過剰量では判定に影響が認められます。原則 1 滴 (40 μ L) での検査をお願い致します。

Q10 臨床的に犬糸状虫症感染は疑われませんが、本検査キットの結果が陽性となりました。どう判断したらよいでしょうか。

A10 次のようなことが考えられます。

(1) 成虫のみが心臓に停滞し、まだマイクロフィラリアを産生していないことが考えられます。このような状況では、血液中からマイクロフィラリアも検出されず、感染犬の症状も軽微となります。しかし、本検査キットは成虫の表面抗原を検出しますので、陽性となります。

(2) *D. immitis* ではまれに雄のみの感染が起こることが知られています。そのような症例ではマイクロフィラリアの産生もなく徴候もわずかで、感染していないように見えることもしばしばあります。本検査キットは雄の表面抗原を高感度に検出しますので、検査結果は陽性となります。以上のことから、本検査キットの結果は雄の *D. immitis* 感染犬の治療判断基準に活用できることが考えられます。

